

事業目的：糖尿病性腎症による新規透析導入患者数の減少（健康ちば21 目標：令和4年 738人 現状：平成29年 870人）

R2.2.6 令和元年度第2回千葉県糖尿病性腎症重症化予防対策推進検討会資料

	重点取組	平成29年度から令和元年度の取組概要	成果及び今後の課題	R2～4年度の取組方針	R2～4年度の取組
1	プログラムの策定・周知 医療機関、市町村、 保険者への通知・説明 県民向け普及啓発	平成29年12月プログラム策定 ①通知、会議等で説明（医師会、9医療圏会議、市町村） ②医師向け研修（県医師会・22地区医師会）、市町村等研修 ③医師会報掲載 ④各団体の講演会や会報誌、事業所向けメルマガ等で発信	・保険者、医療機関へ発信 ・関心のある医療機関が研修会等に参加	保険者がハイリスク者を抽出し、適切に受診勧奨及び保健指導を実施する。	会議、研修会等の、あらゆる機会を活用し周知。 ①②③④ 全ての関係機関（継続）
2	市町村国保の取組推進・充実 特定健診受診率向上 保健指導の実施 受診勧奨の実施	①国保保険者努力支援制度における評価指標及び取組状況 ＊評価指標の見直し ②市町村取組状況調査（H30～）実施状況把握 ③国保連によるKDB外付システム改修・市町村向け研修 ④かかりつけ医向け案内（受診率向上、検査実施、紹介基準掲載）を検討 ⑤保健指導従事者研修会の開催（講師：糖尿病専門医・腎専門医・病院栄養士等） ⑥重症化リスクの高い者への啓発ツールを検討し、ハンドブックを作成	・取組市町村数の増加（括弧内は市町村数） ①H28（24）、H29（30）、H30（45）、R元（53） ②R元度：フロー1 健診からの抽出（52） フロー2 未治療者・治療中断者抽出（22） フロー3 主治医からの紹介（17） 未治療者・治療中断者からの対象者抽出の取組推進を図る		①②ヒアリングと取組状況調査による把握（継続） 【重点取組】③国保連と連携しKDBシステムを活用した取組支援（継続）
			・特定健診受診率（国保）が低い H27(38.7%)、H28(39.2%)、H29(40.1%)、H30速報(40.7%) ・ かかりつけ医向け案内を作成する必要がある 治療中の者の健診未受診者が多い 受診勧奨しても経過観察を含む定期的検査・治療につながらない。 ・保健指導のスキル向上、疾患理解や具体的な栄養指導の研修希望が高い		【重点取組】④かかりつけ医向け案内作成・配付・周知 →R2.10月頃、県内の全病院・診療所へ配付予定 ⑤保健指導従事者研修会（継続） ⑥ハンドブックの作成・配付（継続） →R2.3月、市町村等へ配付済み。今後、希望に応じて追加配付予定。
3	かかりつけ医、医師会・関係機関との連携推進 かかりつけ医による対象者の全身管理 糖尿病及び腎専門医への紹介基準の普及	①検査項目に係る検査機関との連携について検討 ②「糖尿病診療のための10＋5」作成し、医師会報で周知 ③CDE-Chiba養成・更新研修 ④歯科受診時に治療中断者を受診勧奨 ⑤CKDシール作成検討	・県内検査機関へ検査項目について依頼 ・ 登録医制度を広域で展開するための検討が必要 18市町村で受診勧奨先医療機関を把握し、対象者に紹介している。名称（登録医、協力医）や登録要件は様々（研修等受講、地区医師会の推薦など）。 ・歯科受診時の治療中断者への受診勧奨継続 ・ CKDシールの取組の普及	治療継続・重症化予防のため、糖尿病／CKD診療に係る連携体制を構築する。	①②③ 医師会、糖尿病対策推進会議において実施 ④ 歯科医師会において実施 【重点取組】⑤CKDシールを活用した仕組みの検討 医師会、薬剤師会、糖尿病対策推進会議、腎専門医、県において実施 →現在、県薬剤師会等と検討中。R2年度中に作成・配付予定。
CKD重病化予防対策部会					
	CKD対策の当面の取組の方向性を検討	令和3年度特定健診による対象者抽出・受診勧奨実施を目指し、令和2年度に体制整備 ①学会基準に沿った抽出基準のフロー図 ②仮称CKD対策協力医の検討 ③CKDシールを活用した疑義照会	・（仮称）協力医制度の創設について、医師会や糖尿病対策推進会議（糖尿病専門医）、腎専門医等と協議する必要がある ・ CKDシールの取組の普及（再掲）		【重点取組】①CKD抽出基準の保険者への周知 →R2年度中に各保険者へ周知 ②仮称CKD対策協力医の要件、登録等の検討と周知 ③CKDシールを活用した仕組みの検討（再掲）